

『SSH フィールドワーク生物』を開催しました

7月15日(土)～16日(日)の1泊2日の日程で、東北大学附属浅虫海洋生物学教育研究センターにおいて、同センター 准教授 美濃川拓哉 氏を講師として、生物フィールドワークを実施いたしました。今年度のSSH生物フィールドワーク生物には、1年生8名、2年生6名、計14名が参加しました。特に、女子生徒の参加率が高く、今年は昨年度の63%から更に高まり71%に達しました。

昨年度までは、コロナ禍の影響のため1日日程(2回実施)で行われてきましたが、今年度はようやく以前と同じように東北大学附属浅虫海洋生物学教育研究センター宿舎に宿泊しての実施となりました。ただ残念なことに、東北地方北部への大雨の影響を受け、7月15日の夜間の灯火採集などの実習が中止となってしまいました。しかし、翌7月16日の裸島付近での野外観察・採集では十分に時間をとることができましたので、その後の海産無脊椎動物の光学顕微鏡並びに実体顕微鏡での観察が充実したものとなり、刺胞動物、扁形動物、脊索動物、外口動物など全部で10動物門にまたがる多くの無脊椎動物を観察することができました。

また、今回発生の材料として用いたウニは、本来であれば冬期間に産卵期を迎えるバフンウニでしたが、夏季に採卵できるよう温度管理されたもので、2日間にわたるウニの初期発生の観察とともに光逃避行動の観察から管足の4つの機能を学びました。特に、ウニの詳細な形態観察をするための解剖や標本作りに生徒が意欲的に取り組んでいたのが印象的でした。

3方を海に囲まれている本県において、海産無脊椎動物への理解は海洋環境を考える上で大切な要素となりますので、今回のフィールドワークが少しでも故郷の海を考える契機になればと思います。

○活動の様子

